

発表②：「モンゲニ統合学校 4年生におけるスタンダード実践報告」

A.アムガラン先生



**モンゲニ学校におけるスタンダード
実践授業**

対象学年 4年生

モンゲニ学校日本語教師
A.アムガラン

1

授業時間数と学習者数

・対象学年	4年生
・学習者数	7名(男子2名 女子5名)
・学習開始学年	2年生から
・3年生終了時の日本語能力	ひらがな終了・カタカナ清音
・学習時間	週3時間(1時間は40分)
・現在までの学習時間(2013年2月末)	約50時間
・スタンダード実践開始	2012年 9月
・使用教科書	なし
・モンゲニ学校での教師歴	7年目

2

実践にあたっての準備

- ・年間指導案を作成
- ・それに基づいてCan-do表、自己評価表を作成
- ・学習者及び教師用のポートフォリオ用ファイル準備
- ・日本センターの授業見学
- ・片桐先生、モンゴル大学の先生方にアドバイスをもらう
(他に、何よりも気持ちや心構えの準備が大変だった。なぜなら、私は今まで自分が習ってきた日本語学習法を生徒に対して行ってきたので、どうやっていけばいいかわからず、中西先生と相談しながら何とか始めた)
- ・日本センターでの”教授法勉強会”(指導 片桐先生)に参加

3

年間到達目標

- ・カタカナで書かれた言葉が読み書きできる
- ・友達の名前、自分の名前、世界の国の名前、学校の食堂にある食べ物
- ・自己紹介ができる
- ・名前、年齢、家族
- ・学校について簡単に説明できる
- ・食堂、売店、体育館、保健室、教室など
- ・時刻が読める、尋ねられる
- ・授業科目が言える
- ・好きな、嫌いな科目が言える
- ・簡単な計算ができる
- ・モンゴルの季節について

4

授業の準備

- ・日本人の先生と話し合っておく
- ・その日のテーマによって導入のやり方を考える
- ・テーマに合う教具を作成しておく
(フラッシュカード、絵カードなど)
- ・教具は分かりやすく可愛い物を心がけて作成
- ・教案を日本人の先生に事前に見せてアドバイスを受け、
また教案の最後にその日の授業の反省や学習者の様子を書くようにした
- ・ホワイトボードにその日のCan-doを書いておく

5

授業の流れ

- ・前回の授業内容の確認をする。口頭か筆記で
- ・その日の授業の Can-do を書いた紙を黒板にはって
みんなで一緒に読んで確認する
- ・導入、基本練習、応用練習をさせる
- ・ときどき日本の文化紹介のときは日本人の先生に話してもらう
- ・授業の終わりにまとめをする
- ・学習者に自己評価をさせる

6

ポートフォリオの使い方

- ・学習者が楽しく使えるように自由に飾らせる
- ・自己評価表を入れておく
- ・授業が終わる時その日の自己評価を書かせる
- ・日本に関係があることを経験した場合の文や
写真や絵などを入れる(必ず日付を書くよう指導)
- ・テストの紙(必ず日付を書くよう指導)
- ・自分で作った作品を入れておく
- ・月曜日、火曜日は先生にあずける
- ・金曜日は持って帰って親に見せるようにしている
- ・教師もポートフォリオを持っている

7

ポートフォリオ



8

評価

- ・ 自己評価
- ・ 教師評価

9

自己評価

- ・ 学習者に分かりやすく、あまり難しくないようにした
- ◎ よく分かった ○ 分かった △ もうちょっと
- ・ △ でも後でできるようにしたら◎にする。
◎になった日も記入する
- ・ Can-do は日本語とモンゴル語で書いてあるので
親にも授業の内容が分かる
- ・ 一日三つぐらいのCan-do 項目にする
どの程度の日本語を勉強しているか分かる

10

自己評価表 (今日はどうだったかな?)

時 Цэг	Can-do Чадамж	よく できた Сайн чадсан	だいたい できた Баяг чадсан	もう ちょっと Дэжид жөөжөн
		◎	○	△
1	カタカナ カタカナ バビブベボ がよめる Ба би бү бэ бо уншиж чадна			
	バビブベボ がかける Ба би бү бэ бо бичиж чадна			
	ダデドのことばをよめる Дэ дэ до орсон үг уншиж чадна			

11

教師評価

- ・ 授業中、学習者の様子を見てつける
日本語の発音、言葉の早さ、積極性を見る
- ・ 正しく聞けたか、正しく答えられたかを見る

12

教師評価

名前	発音	言葉の早さ	様子	文法
マラル	◎	◎	◎	◎
サルナイ	○	◎	◎	◎
バラスポルド	◎	◎	◎	◎
ルハグワオチル	○	○	◎	○
スングリヤー	◎	◎	◎	◎
ウチラル	◎	◎	◎	◎
エンフザヤ	◎	◎	◎	◎

◎よく できた ○できた △ちょっと がんばって

13

スタンダード授業を始める前と 半年たった現在の違い

1. スタンダードについて知識がほとんどなかった
↓
少し分かるようになった
2. 文法中心、文法積み上げばかりだった
↓
他の学年も文法積み上げをやめるように心がけている
3. ひらがな・カタカナ終わるとすぐに「ひろこさんの楽しい日本語」に入っていた
↓
子供たちの身近な話題を出すようにしている。例えば、自己紹介や学校生活など
4. 今まででは教師がすぐに黒板に書いて書かせたり読ませたりしていた
↓
耳から入れさせるようにしている

14

教師の意見

- ・子供ともっと話しをしたほうがいいと思う
なぜなら自分がいいと思うことと子供がいいと思うことがいつも同じではないと言ったことが分かってきた
- ・自分がもっている日本語の知識を子供たちに全部教えようとしてきた
子供たちもそれを普通だと思っていた。でも私も子供たちも教えたり教えられたりする機械ではないことが少し分かってきた

15

学習者の意見

- 楽しかった授業**
「夢の学校」と言う授業→ 学習者がそれぞれ自分の夢の学校を想像して絵にかいてクラスの友達に紹介した
- あまり楽しなかった授業**
家族を紹介する授業→ 家族の呼称をよく覚えてなかったので難しかった
- その他の意見**
 - ・40分は短い
 - ・授業をもう少しゆっくりして欲しい
 - ・授業時間数が増えたらいいなあ

16

問題点

- ・授業に教師がモンゴル語を使いすぎた
- ・スタンダードの知識がほとんどないので、授業がスムーズにいかない場面がたくさんあった
- ・その日のCan-doをやらなければと思い、急いだことがある
- ・何がスタンダードなのか分からなくなることがある
- ・自分の中にある古い教授法からなかなか抜け出せない
- ・自分がやっていることが正しいか間違っているかの判断が難しい

17

今後の課題

- ・日本人の先生と努力してJFスタンダードの理解を進めていきたい
- ・インターネットでサイトに入ってもなかなか理解できない所があるので、日本人の先生に聞いたりして勉強しなければいけないと思う
- ・これからは語彙だけでなく、発話が必要となってくるので、トピックシラバスで子供たちに身近な話題をだしたい
- ・学習者のレベルもよく考えたり遅れた子供もどうするか考えなければいけない
- ・学習者の振り返りとともに自分自身の振り返りもしたい
- ・いい結果を見せるだけの仕事がいい仕事だと思っていたがそれは学習者に対して効果のないものだったと少し分かったので、もし自分が今から外国語を学ぶとしたら。。。と考えながら学習者の立場にも立ちたい

18



19

ご静聴ありがとうございました

20

<ビデオによる授業風景の紹介あり。>

- ・この日の Can-do は、「学校の中で一番好きな場所はどこか、言えるようになる。」「カタカナのシャシュショが書けるようになる。」
- ・Can-do を確認した後、“モンゲニ学校の中で、どこが好きか” 学習者に尋ねる。学習者から出

てこない場所については、教師が答えを引き出すような質問をする。

- ・その後、教室を出て、学校内を回る。「○階」「△階」と言いながら階段を下りる。
- ・売店へ行って、「ばいてん」と書いたカードを示し、みんなで読み、場所名を確認する。“売店で何を売っているか”モンゴル語で学習に尋ね、日本語で「アイスクリーム」「キャンディー」と答えさせる。その他、外へ出て「こうてい」、食堂へ行って「しょくどう」、食堂で何を食べますか「ピロシキ」「キャンディー」、何がありますか「いす」「つくえ」「テーブル」、出て行くときに「ありがとうございました」などといった発話を学習者に促している。